

平成28年度 新潟市生徒指導部 活動報告

部長 伊藤 秀昭（新潟市立鳥屋野小学校）

1 研究主題

“心を育てる”

～かかわり合い、共に育つ集団を目指して～

2 研究の概要

- 支援に必要な児童理解の視点や具体的な支援方法について、講演や演習を通して理解を深める。
- 授業研究によって、実践イメージを明確にもつ。
- レポートを持ち寄り、個々の実践を検証し共有する。

3 事業の実際

今年度は、8月17日に新潟テルサで行われた、新潟市小学校教育研究協議会研究発表会で、これまでの研究成果を発表した。以下はその概要である。

（1）「日々の授業」による成長を促す生徒指導

子どもの「心」を育てるためには、教育活動の大きな部分を占める授業に焦点を当てることが重要だと考えた。授業づくりと生徒指導の一体化を意識し、授業を通して学級の支持的風土を支える共感的人間関係を形成する力を育成するためにはどうすればよいのか、実践と考察を進めてきた。

（2）「社会的能力を育てる活動」による成長を促す生徒指導

生徒指導部では、以前から社会的能力の育成のために、ソーシャルスキル・トレーニングや構成的グループエンカウンターなどの手法を取り入れ、効果を上げてきた。更にその他の手法にも研究を広げ、実践を試みてきた。

① 社会性と情動の学習（SEL：Social Emotional Learning）の実践

SELとは、学校で身に付けたい社会的能力を高めるために開発された心理教育プログラムの総称で、感情の教育と呼ばれているもの。

② レジリエンス（心の力）を育てる学習の実践

レジリエンスの学習とは、心の回復力や復元力を身に付けるための学習のことを指す。他の手法と違い、子どもを「守る」という視点ではなく、子どもが問題に「対処する」という視点での手法。

（3）研究のまとめ

「生徒指導との一体化を目指した日々の授業」によって得られた成果は二つである。一つ目は子どもたちの共感的人間関係を養っていくには、子どもたちの考えを教師がコーディネートし、共感的なコミュニケーションを促していくことである。二つ目は、教科のねらいと共に、生徒指導的なねらいや手立てを指導案に明記することである。そうすることで、支持的風土を支える共感的な人間関係を日々の授業の中で育てることができる。

「社会的能力を育てる活動」から得られた成果は、活動を計画的に教育活動の中に位置付けることで、身に付けさせたい能力を効果的に高めることができることである。また、そこで学習したことを日々の授業の中に取り入れることは、社会的能力の定着に効果があった。

4 成果と課題

（1）成果

- 理論と実践を関連付けた研修を実施することができ、参会者の実践意欲が高まった。
- 新潟市小学校教育研究協議会研究発表会で、これまでの研究成果を整理し、参会者に紹介することができた。
- 生徒指導上の実践事例や問題事例を互いに持ち寄り検討することで、効果的な対応について共有することができた。

（2）課題

- 今年度は、研究発表会でこれまでの研究の成果を整理することができた。改めて、現在の教育課題や社会のニーズから研究テーマを吟味し、更に研修を深めていく。